

目的・活動・人員	1.	2	3	4	5	課題・何をどのようにすれば進めることができるか
・優良農地を次世代の就農者に繋いでいくための栽培管理	×	○	○	○	○	2.リスクが大きすぎる 利益を出すことが大変だ 3.最低限の栽培管理 組織の運営財源確保・人材の確保 5.人員の確保・お金
・残すべき農地を次世代の就農者に繋いでいくための農地維持管理	○	◎	○	◎	○	1.果樹を継続できない場合を遊休農地にしない為 組織に信頼がないといけない。どうやりくりしていくか（人づくり） 2.法人の労働力・運転資金・品目転換も考慮して 3.新規就農への継承 4.人材・農機・財源 5.人員の確保、お金
・新しい品目や新しい栽培方法などを広めるための試験的活動	○	×	×	×	○	
・農作業受託（草刈り、剪定等）	○	◎	×	○	○	1. 果樹を継続できない場合を遊休農地にしない為 実動（どれだけのスタッフを確保できるか） 機械を扱える人が必要 機械を法人で所有持ち主が操作する 2.剪定は技術が必要・お金を払ってまで委託するなら、貸した方がよいのでは・プラス仲介することもいいのでは
・新規就農者の研修受け入れ	○	×	×	◎	○	4.定住住宅の確保・里親の充実・指導者 5.受け入れするにはコンサルタントが必要ではないか
・農業体験希望者の受け入れ	○	×	×	○	×	
・各種補助事業の申請支援	○	×	×	×	×	
・指導者（農地管理者）	○	×	○	○	○	3.地域の様子がわかる人
・農業コンサルタント	○	×	×	×	○	
・退職して農業を始める人への支援	○	×	×	×	×	
・空き農地での果樹以外の栽培管理	○	×	×	○	×	
・生産性の高い農地に整備	○	◎	×	○	×	1.高齢者・女性・子供でも作りやすい圃場へ ジョイント・高密植など今の育て方に基盤整備により次につなげやすい 初期投資がかかる 2.新品目の導入・新技術の導入 新しい担い手は古い技術には馴染まない 梨ジョイント栽培・りんご高密植栽培等の導入
・次世代に繋ぐため、小中学生の学びの農地	○	×	×	×	×	
・環境保全型に特化した法人（SDGsの観点から）	○	△	×	◎	○	2.特化を配慮した法人 4.取組への支援(ブランド・機械など)・情報 ゆうき給食とどけたい隊を増やす 意識改革の推進（体験学習） 5.難しいけど、必要なことだと思う
・研修生の実証圃場	×	×	×	○	○	
・販売管理	×	×	×	×	○	
・鳥獣害対策	×	×	×	○	×	

2. 各グループの発表

1	○を多く書きましたが、人数や予算のこともあるので、3つに絞るといっているのであれば、新規就農者や農地の維持管理、生産性の高い農地への整備が必要不可欠と考える
2	優良農地を管理していく法人となると、必要だと思うが、リスクが大きすぎる。次の世代に引き継ぐための新品種や新技術の導入を。今までの古いやり方は新しい人にはなじまない。より生産性の高い、効率的な農業が求められると思うが、初期投資がかかりすぎるのではないかと感じる。環境保全型の農業もこれからの時代は必要なことと思う。
3	次世代の就農者へ継承していくために農地の最低限の維持管理は必要となるが、組織の運営資金・人材確保が課題となる。農地の管理者は地域の様子がわかる人材が必要。
4	農地の維持管理には、人材、農機具、財源が必要となる。それはどういった方法で工面できるのかを考える必要がある。次の担い手に繋ぐため、新規就農者の受け入れは必要と思う。住宅確保、里親の充実、指導者が必要となる。そういったところを法人が担えてらひよいのではないかと。環境保全型にも力を入れたい。現在、活動中のゆうき給食とどけ隊のメンバーを増やし、意識改革の推進も必要ではないかと思う。
5	可能であれば、すべて入れてもらいたいものばかりであるとの意見だったが、一人3つずつ手を挙げて絞っていった。一人でも手が上がったものは○にし、その後、農地の維持管理・新規就農者の受け入れ・環境保全型の3つに絞った。 ・はじめは栽培管理についても必要とのことであったが、遊休農地や耕作放棄地を解消し、次につなげていく農地として考えていくと、農地の維持管理の方が必要ではないかとのことで落ち着いた。どちらにしろ、誰が維持管理を行うか、そのお金はどうするかが課題になってくるのではないかと。 ・新規就農者の受け入れに関しては、技術もそうだが経営のノウハウ等についてコンサルなどが必要ではないかと考える。 ・環境保全型について、“特化した”とすると強い気がする。難しいことだと思うが、今後を考えると、環境についても入れていくことが望ましいと思う。